

インクルーシブな多世代交流拠点を開設し、地域交流を図る

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人子育て支援グループamigoの取り組みを紹介しします。

産前産後に特化した子育て支援に取り組む

東京都世田谷区にある特定非営利活動法人子育て支援グループamigo（理事長：石山恭子氏）は、世田谷区松原を拠点に「地域に根ざした子育て」をテーマに、産前産後に特化した子育て支援に取り組んでいる。

団体の沿革としては、平成13年に世田谷区にある認可外保育所内に「ふらっとサロン」を設置し、子育て中の母親を中心に専門職と連携しながら産前産後のプログラムを開始したことがはじまりである。平成26年にNPO

法人化している。

現在の主な活動は、世田谷区の補助事業として、未就学児（主に0～3歳児）の親子が自由に過ごしたり、子育ての情報交換や育児相談ができる親子のつどいの場「おでかけひろば」を2カ所運営している。同法人が運営する「おでかけひろば」では、こどもの一時預かりやレスパイト事業を実施するとともに、「ワークスペースひろば型」として併設したワークスペースでこどもの近くで働ける環境をつくることで、子育てと就労の両立をサポートしている。

そのほかにも、自主事業として産前産後訪問支援の「マザリングベル」や、子育てに関する多様な講座を開催している。

「マザリングベル」は、法人スタッフの子育て支援コーディネーターが新たに母親となる女性の自宅を訪問し、赤ちゃんを迎えるために必要な情報提供をはじめ、沐浴や就寝場所などの生活動線についてアドバイスを行い、産後は食事づくりを中心に掃除・洗濯などの家事援助、沐浴の手伝いをする中で、初めての育児で不安や孤独感を抱える母親を支援している。

ひと言

WAMから

病気・障害・発達特性のあるこどもとその家族に対する新しい効果的な支援方法を見いだした、制度の狭間にある地域課題と向き合う事業を実施されました。スタッフによる支援だけでなく、参加者同士によるインフォーマルなサポートがなされている点、病気・障害・発達特性にかかわらずこどもとその家族が交流できる仕掛けをしている点を評価しています。

WAM助成事業を通じた成果を、今後自主事業としてさらに展開されることを期待しています。

多世代交流拠点を開設し、インクルーシブなまちづくりを推進

同法人は、令和5、6年度のWAM助成を活用し、「まちのみんなのarTeaTreat事業」を実施した。

同事業では、病気や障害、発達特性があるこどもに対する地域住民の理解を深め、当事者親子が安心できるまちづくりを目的に、①親子むけ運動教室、②きょうだい児の一時預かり、③不登校の居場所づくり、④インクルーシブな交流の場づくりなどを行った。

事業を実施した経緯について、理事の壬生真理子氏は次のように説明する。





▲▼令和5年に開設した「パプリコ」。地域住民が気軽に集えるコミュニティカフェやインクルーシブな子育て支援拠点として運営。写真下は親子むけ体操教室の様子



「世田谷区には国立成育医療研究センターや特別支援学校など、保健医療福祉の施設が集まり、生まれながらも病気や障害のある子どもが少なくないにも関わらず、運営する『おでかけひろば』にはそのような子どもたちの利用につながっていない現状がありました。障害や発達特性の診断を受けると、医療・福祉機関に居場所が偏りがちとなり、それ以外の社会参加や交流の機会は少なく、保護者が孤立していることが課題でした。そのため、WAM助成では、世田谷区松原に新たに多世代交流拠点『パプリコ』を開設し、障害の有無に関わらず子育て中の親子が参加できる居場所づくりや多様なプログラム、きょうだいの一時預かりなどを実施することにより、当事者親子が同じ地域に暮らす人たちと一緒に、居心地よく安心して生活することのできるまちづくりに取り組ましました」(以

下、「」内は壬生理事の説明)。
なお、事業名にある「arTeaTreatT (アートイートリート)」は、「art」(表現活動)、「eat」(食の活動)、「treat」(ケア・癒し)を組み合わせた造語で、この3つをキーワードに居場所づくりやプログラムを実施し、地域住民の理解を深めながら、互いに支えあえるまちづくりを目指した。
また、新たに開設した「パプリコ」は、小田急線梅ヶ丘駅前にあり、「小さなカルチャーセンター」として子育て中の親子を中心に地域の多世代が気軽に集えるコミュニティカフェを運営しており、さまざまなイベントや講座、ワークショップなどを開催するス

令和6年度事業

特定非営利活動法人 子育て支援グループamigo

まちのみんなのarTeaTreatT (アートイートリート) 事業



WAM 助成
e-ライブラリー

事業概要

助成額

699万9千円

【事業概要】

インクルーシブな子育て支援拠点を開設し、「art」(表現)、「eat」(食)、「treat」(ケア)をテーマにした交流プログラムを通じて、病気や障害、発達特性のある子どもに対する地域住民の理解を深め、当事者親子が安心できるまちづくりを目指す事業



【実施内容】

◆親子むけ運動教室
未就学から学齢期の親子を対象に、インクルーシブな環境のなかでリズム運動や親子の関わりを学ぶ機会を提供

◆きょうだいの一時預かり
公的な療育施設に通う子どものきょうだいの親を対象にした一時預かり事業を実施

◆インクルーシブな交流の場
病気や障害、発達特性の有無に関わらず、親子で参加できる交流イベントを開催

【成果】

◆年間8回開催した「親子むけ運動教室」には、延べ56組129人の親子が参加した。毎回昼食を提供し、食の場があるからこそ生まれる会話や子どもたちの自主的な活動につながった

◆「きょうだいの一時預かり」は、延べ94人(実人数19人)のきょうだいの親が利用した。保育サポーター研修を受けた保護者が支援者として参画したことで、自己肯定感を高めるケースもあった

◆「インクルーシブな交流の場」では、障害の有無に関わらず誰もが一緒に楽しめるイベント「砧公園スペシャルデー」を開催。アートに関するワークショップでは、発達障害や自閉症、医療的ケアが必要な子どもたちが健常児と交流しながら、一緒に創作活動を行った。令和6年3月に製作した作品の展示会を開催し、延べ777人の来場があった



リズム運動教室には 多様な親子が参加

「親子むけ運動教室」では、障害の有無に限らず、未就学から学齢期の親子を対象に、音楽にあわせてリズム運動の機会を提供した。令和6年度は年間8回開催し、延べ56組129人の親子が参加した。
事業の周知方法としては、SNSで発信し

ペースを設けている。



たほか、運営する「おでかけひろば」や国立
成育医療研究センター、特別支援学校、児童
発達支援事業所などに案内チラシを配布した
ことで、健常児とともに知的障害や発達障害、
肢体不自由のある子どもたちが参加した。

「活動では、インクルーシブな環境のなか
で身体を動かしながら、親子の関わり方を学
んでもらいました。プログラムの終了後は、
毎回昼食を提供しており、食の場があるから
こそ生まれる会話や、こどもの自主的な活動
につながりました。また、障害のあることも
と常に過ごしている保護者から日曜日の過
し方で困っているという声が多く寄せられた
ことから、すべて日曜日に開催しました。休
日に体を動かし、ゆつくりと交流や昼食をと
ってもらふことで、保護者のレスパイトにつ
なげています」。

地域住民が支援者として参画

「きょうだい児の一時預かり」では、世田
谷区の療育の中核的拠点施



きょうだい児の一時預かり事業では、法人スタッフ
とともに保育サポーターの研修を受けた保護者が
支援に携わった



障害の有無に関わらず誰もが一緒に楽しめるイベント
「砧公園スペシャルデー」を開催

設「ぶらみんぼーと」に通うこどものきょう
だい児を対象に、年間延べ94人（実人数19人）
の受け入れを行った。

「きょうだい児のサポートは、十分に整備さ
れておらず、例えば上の子が療育に通うとき
に、下の子は連れていけないことを面談時に
知ることがあります。自分でこどもの預かり
場所を探さなくてはならず、なかなか予約が
とれないことで困っている保護者が少なくあ
りませんでした。一時預かりの支援体制では、
法人スタッフのほか、子育てがひと段落した
り、地域の役に立ちたいと考える地域住民が
保育サポーターの研修を受け、支援に携わっ
ていただいています。なかには同じような障
害のあるこどもをもつ母親が支援に携わるこ
とで、母親自身の社会参加や自己肯定感の向
上につながるケースもありました」。

連携する療育機関が実施した利用者アンケ
ートでは、「一時預かりがあつたから療育を
継続できた」、「療育帰りのこどもや保護者が
一息つける場となり、きょうだい児の育ちに
ついても相談することがで
きた」などの声が寄せられ
たという。

そのほかにも「パブリコ」
では、不登校の状態にある
小学生とその保護者に対
し、日中の居場所として開
放しており、こどもが学校
以外でも多様な経験をする
機会や、保護者同士が同じ
立場で会話できる場を提供
している。

誰もが楽しめるインクルーシブ イベントを開催

「インクルーシブな交流の場」としては、
「art」「eat」「treat」をキーワードに、
病気や障害、発達特性の有無に関わらず、親
子が楽しめるインクルーシブイベントとして
「砧公園スペシャルデー」を開催した。

イベントでは、縁日の屋台を出店し、公園
内に設置されたインクルーシブな遊具遊び、
アートや遊びに関するワークショップ、音楽
やダンスの発表会などを行った。

「自閉症や肢体不自由、医療的ケア児など
移動が困難な親子に対しては、希望に応じて
福祉車両を手配して自宅から公園までの送迎
支援を行うことで、健常児にとどまらず、多
くの病気や障害のあるこどもたちに参加して
もらうことができました。障害によりプログ
ラムの順番を待つことが難しいこどもには、
ファストパスシールを配布し、優先的にプロ
グラムに参加できるよう工夫しています。ま
た、国立成育医療研究センターに障害があつ
てもできる遊びに関するブースを出展しても
らったこと、また看護師やセラピストが同行
していたことは、当事者親子にとって安心感
につながったと思います」。

アートに関するワークショップでは、健常
児と障害のあるこどもが一緒に大きなキャン
バスに絵を描くプログラムを実施した。肢体
不自由のこどもたちが、車いすに乗ったまま
絵を描いたり、直接キャンバスに座り全身を
使いながら絵を描くなど、自分を表現するこ



助成事業の成果としては、障害のあること
もと家族へのインフォーマルな支援として、
パブリコを拠点につながる場を提供し、ピア
サポートする仲間づくり、保護者の社会参加

交流により育児への肯定感が向上

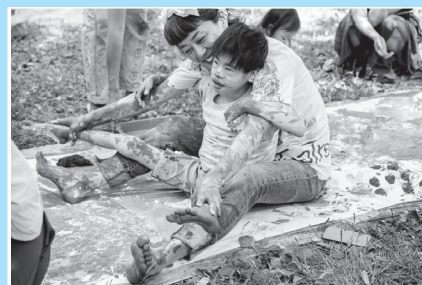


製作した作品の展示会には、延べ 777 人が来場した

とを体験して
もらった。
令和 6 年 3 月
には、砧公園内
にある世田谷美
術館の市民活動
コーナーで、参
加者が製作した
作品の展示会を
開催しており、
延べ 777 人の
来場があったと
いう。



▲▼アートに関するワークショップでは、障
害のある子どもたちと健常児が交流しな
がら、一緒に創作活動を行った



専門的支援の前段階で つながれる場が必要

特定非営利活動法人子育て支援グループamigo

理事 壬生 真理子 氏



WAM 助成では、新たに開設
した「パブリコ」を拠点に、病
気や障害、発達特性に関わらず、
当事者親子同士や地域住民が交
流を図ることにより、互いを理
解しあうことにつながりました。
きょうだい児の一時預かりは、
カフェを営業するなかでこ

どもをお預かりしているため、このような子育てニ
ーズがあることを地域住民に知ってもらえる場にもな
っています。

今後の展望としては、こどもの言葉の遅れや多動な
などの困りごとがあっても、専門機関の診断や支援ま
での期間が長く、その間に保護者が孤立して育児不安
が大きくなっていることから、専門的な支援の前段階
で気軽につながる場をつくる必要があると考えています。

◆団体概要

〒156-0043
東京都世田谷区松原 4-17-15
TEL : 03-3328-4411
URL : <https://www.kosodate-amigo.com/>
設 立 : 平成 26 年
理事長 : 石山 恭子

という気持ちの共有や育児への肯定感を少
なからず感じてもらうことができました。参
加者からは『交流したことで視野が広がっ
た』『支援する側に回りたい』という声をい
ただいています。また、当初想定していなか
った効果としては、パブリコの近隣には特別

や活躍の場を創出
することができた。
「行政や福祉サー
ビスの仕組みだけ
では他の障害につ
いて知ることの少
ない当事者親子同
士が、イベントを
通じて異なる立場
の親子と関わるこ
とで、新たな視点
を取り入れたり、
自分ひとりではな

支援学校があり、医療的
ケア児の保護者は入学後
に付き添いが必要とな
り、学校から連絡が入る
と 5 分で駆けつけなくて
はならないのですが、カ
フェで雇用することで、
働きながら急な連絡に対
応できるケースがありま
した。カフェのスタッフ
として支援に携わる保護
者も多くなっています」。
インクルーシブなまち
づくりに向け、病気や障
害、発達特性に関わらず、
親子が交流できる機会を
提供する同法人の活動が
全国に広がるのが期待
される。



社会福祉振興助成事業に
関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)
TEL : 03-3438-4756 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)
TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 等の民間福祉活動への
応援よろしくをお願いします!

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先 : 03-3438-0211 (総務部総務課)

